

第4章 事業予定地及びその周辺地域の概況

第4章 事業予定地及びその周辺地域の概況

事業予定地は名古屋市西部に位置し、周辺には住宅地域や水田等の農地が広がっており、中小の工場が点在している。

事業予定地では、平成元年から富田工場が稼働しており、平成21年3月に休止した。平成20年度までの5年間に行われた排ガス濃度等の測定結果は資料1-2（資料編p.2）に示すとおりである。

また、図1-4-1に示すとおり、事業予定地東側近くには新川が、西側近くには戸田川が南北に流れ、南側近くにはJR関西本線、さらに南側には近鉄名古屋線が東西に走っている。

事業予定地及びその周辺地域の概況を整理する区域として、工事中の騒音・安全性、供用時の大気質の影響範囲及び施設関連車両の滞留する可能性がある河川橋に着目し、街区等を考慮して、表1-4-1及び図1-4-2に示す地域（以下、「調査対象区域」という。）を設定した。

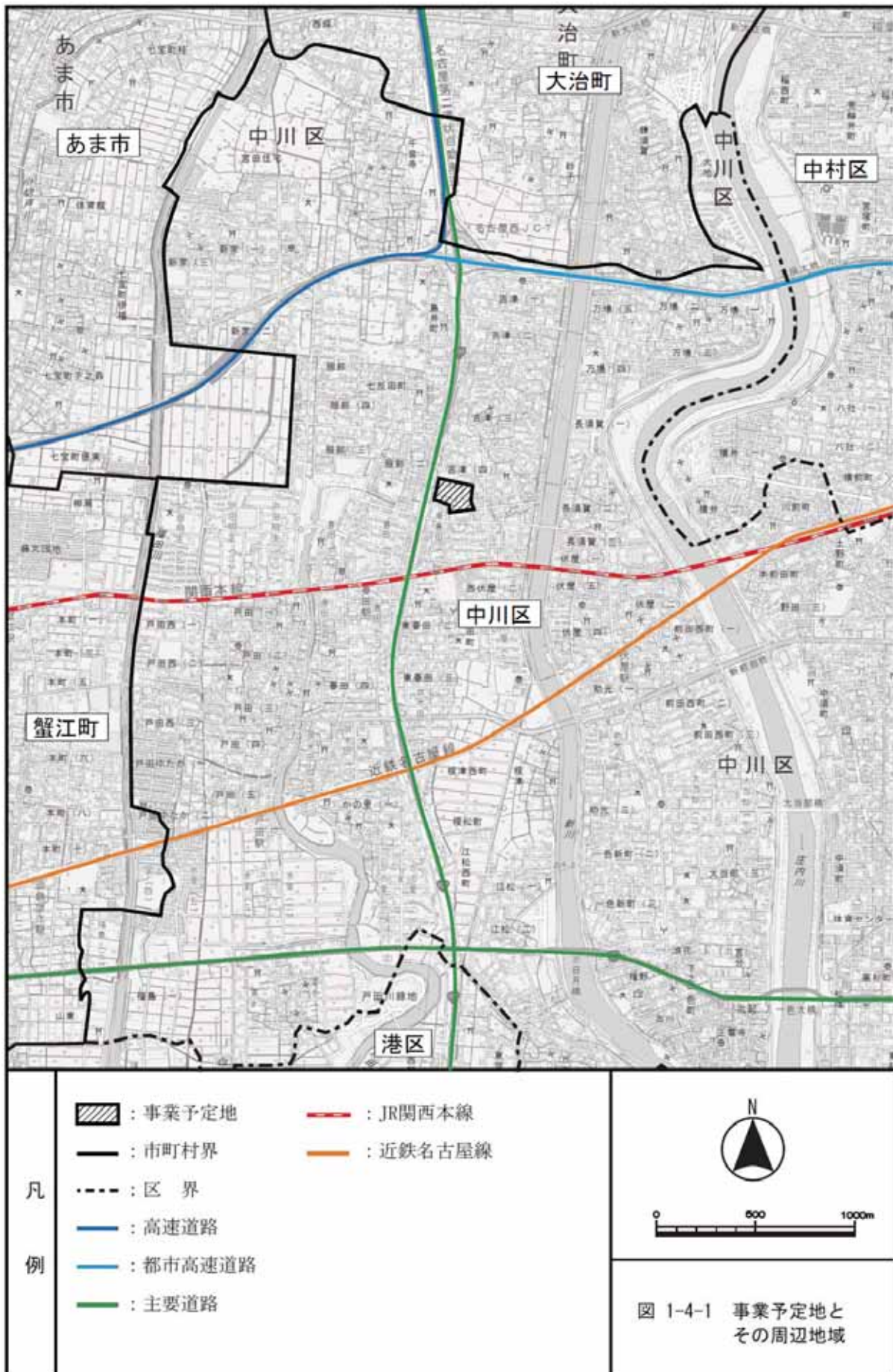
調査対象区域は、概略として、東端が庄内川、西端が福田川、北端が県道津島七宝名古屋線、南端が国道1号で囲まれている。

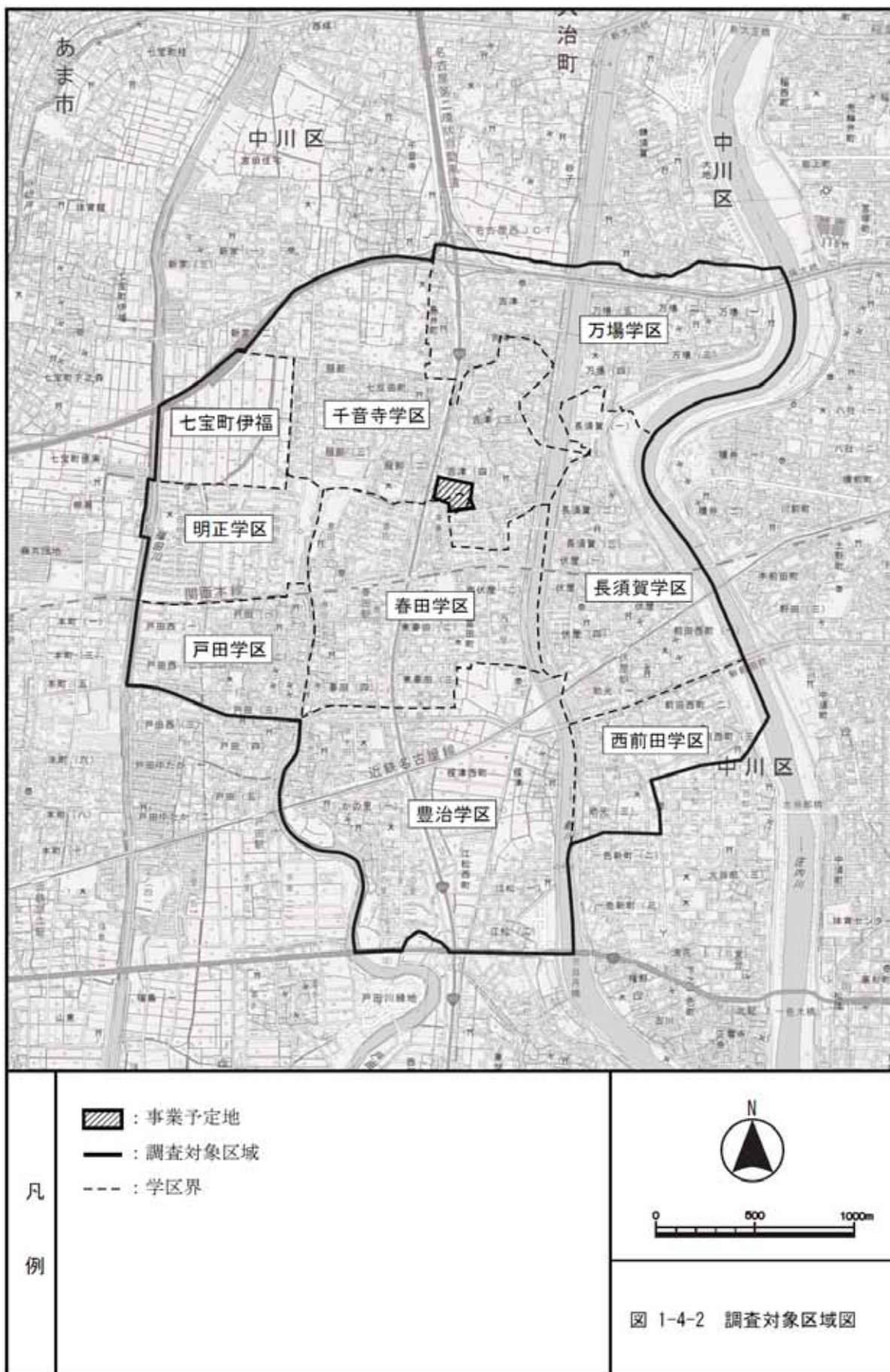
表 1-4-1 調査対象区域

市区名	学 区 等
中川区	戸田学区の一部、春田学区、豊治学区の一部、長須賀学区の一部、西前田学区、万場学区の一部、千音寺学区、明正学区
あま市	七宝町伊福の一部

この調査対象区域を中心に、事業予定地周辺の地域特性を「自然的状況」及び「社会的状況」に分けて整理する。

なお、資料収集は、原則として平成26年4月末時点で入手可能な最新の資料とした。資料整理に当たっては、学区毎の区分ができるものについては学区毎に整理し、名古屋市、中川区、あま市及び七宝町伊福でのデータしか得られないものについてはこの単位毎に整理した。





4-1 社会的状況

4-1-1 人口及び産業

(1) 人口及び世帯数

名古屋市、あま市及び調査対象区域を含む学区等（以下、「関係学区等」という。）の平成 26 年 4 月 1 日現在における人口及び世帯数は表 1-4-2(1)に、平成 2 年以降の国勢調査における人口及び世帯数の推移と増加率は表 1-4-2(2)に示すとおりである。また、平成 26 年 4 月 1 日現在における年齢別人口構成比は図 1-4-3 に、平成 17 年 10 月 1 日現在における関係学区等の昼夜間人口は表 1-4-3 に示すとおりである。

既存施設が稼働を開始した直後の平成 2 年と平成 22 年の人口を比べると、名古屋市で約 5.1%、あま市で約 13.1%の増加に対し、関係学区等合計では約 28.6%と高い増加率となっている。最近はずかに減少傾向が見られ、平成 26 年の人口は、平成 25 年に比べ、名古屋市、あま市ともほぼ横ばいであるが、関係学区等合計では減少している。

1 世帯当たりの人員は、名古屋市及びあま市よりも関係学区等の方が高い傾向となっている。

年齢別人口は、全ての区分で 0～14 歳の人口比率よりも 65 歳以上の人口比率が高い傾向となっている。

また、関係学区等の昼夜間人口比率は約 74.7%であり、事業活動等に伴い昼間に人口が減少する地域といえる。

資料)「統計なごや web 版」(名古屋市ホームページ)

「統計あま」(あま市ホームページ)

「平成 17 年 学区別昼間(従業員)人口(推計値)」(名古屋市ホームページ)

表 1-4-2(1) 人口及び世帯数(平成 26 年 4 月 1 日現在)

区分		人口 (人) (A)	世帯数 (世帯)	1 世帯当たり の人員(人)	平成 25 年 人口(人) (B)	増加率 (%)
名古屋市		2,268,217	1,037,704	2.19	2,262,176	0.3
中川区	豊治学区	10,811	3,925	2.75	10,785	0.2
	戸田学区	9,347	3,480	2.69	9,310	0.4
	春田学区	8,537	3,371	2.53	8,680	▲1.6
	明正学区	4,604	1,983	2.32	4,684	▲1.7
	千音寺学区	11,070	4,308	2.57	11,150	▲0.7
	万場学区	7,780	3,139	2.48	7,877	▲1.2
	長須賀学区	7,929	3,198	2.48	7,874	0.7
	西前田学区	4,346	1,744	2.49	4,402	▲1.3
あま市		88,090	34,516	2.55	87,938	0.2
	七宝町伊福	2,724	1,026	2.65	2,680	1.6
関係学区等合計		67,148	26,174	2.57	67,442	▲0.4

注) 1:増加率(%) = ((A - B) / B) × 100

2:平成 25 年人口は、平成 25 年 4 月 1 日現在

3:▲は減少を示す

表 1-4-2(2) 国勢調査における人口及び世帯数の推移

区分		人口（人）					増減率 (H22-H2)/H2 (%)
		世帯数（世帯）					
		平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	
名古屋市		2, 154, 793	2, 152, 184	2, 171, 557	2, 215, 062	2, 263, 894	5. 1
		792, 080	841, 083	897, 932	955, 851	1, 021, 227	28. 9
中川区	豊治学区	7, 666	8, 466	10, 107	10, 392	10, 872	41. 8
		2, 224	2, 629	3, 277	3, 551	3, 816	71. 6
	戸田学区	7, 796	7, 937	7, 809	8, 351	9, 244	18. 6
		2, 279	2, 488	2, 561	2, 920	3, 373	48. 0
	春田学区	5, 987	7, 212	8, 144	8, 799	8, 719	45. 6
		1, 836	2, 347	2, 791	3, 184	3, 391	84. 7
	明正学区	5, 515	5, 251	4, 741	4, 439	4, 932	▲10. 6
		1, 737	1, 824	1, 814	1, 865	2, 147	23. 6
	千音寺学区	7, 335	9, 715	9, 631	10, 795	11, 154	52. 1
		2, 432	3, 262	3, 382	3, 926	4, 252	74. 8
	万場学区	6, 465	7, 718	7, 755	7, 803	7, 828	21. 1
		2, 098	2, 472	2, 623	2, 854	3, 054	45. 6
	長須賀学区	5, 217	5, 863	6, 673	7, 475	7, 808	49. 7
		1, 601	1, 952	2, 368	2, 774	3, 087	92. 8
	西前田学区	4, 358	4, 748	4, 623	4, 542	4, 587	5. 3
		1, 336	1, 506	1, 556	1, 664	1, 817	36. 0
あま市		76, 659	78, 678	82, 321	85, 307	86, 714	13. 1
		22, 234	24, 344	27, 055	29, 645	31, 355	41. 0
	七宝町伊福	2, 410	2, 406	2, 624	2, 702	2, 700	12. 0
		670	729	843	926	958	43. 0
関係学区等合計		52, 749	59, 316	62, 107	65, 298	67, 844	28. 6
		16, 213	19, 209	21, 215	23, 664	25, 895	59. 7

注) ▲は減少を示す

(2) 産業

名古屋市、あま市及び関係学区等の平成 18 年 10 月 1 日現在における産業別事業所数並びに従業者数は図 1-4-4(1), (2)に示すとおりである。

名古屋市、あま市及び関係学区等における事業所数及び従業者数は第三次産業の割合が高く、特に明正学区及び七宝町伊福が高い割合となっている。

資料)「名古屋の事業所・企業(平成 18 年事業所・企業統計調査結果)」(平成 20 年 名古屋市)

「平成 18 年事業所・企業統計調査」(総務省ホームページ)

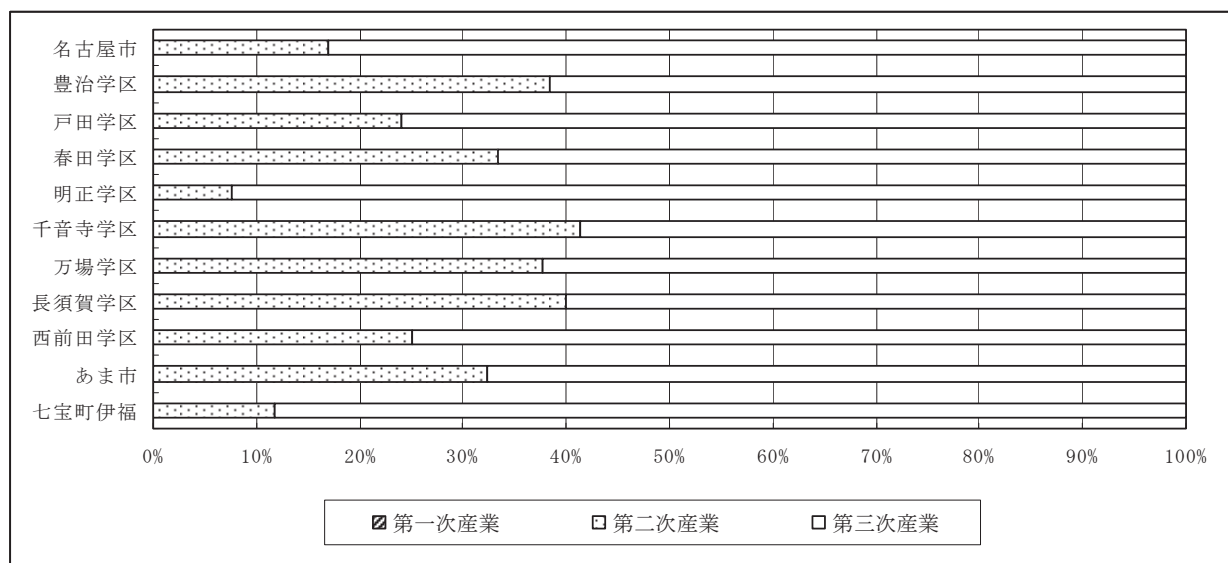


図 1-4-4(1) 産業別事業所数

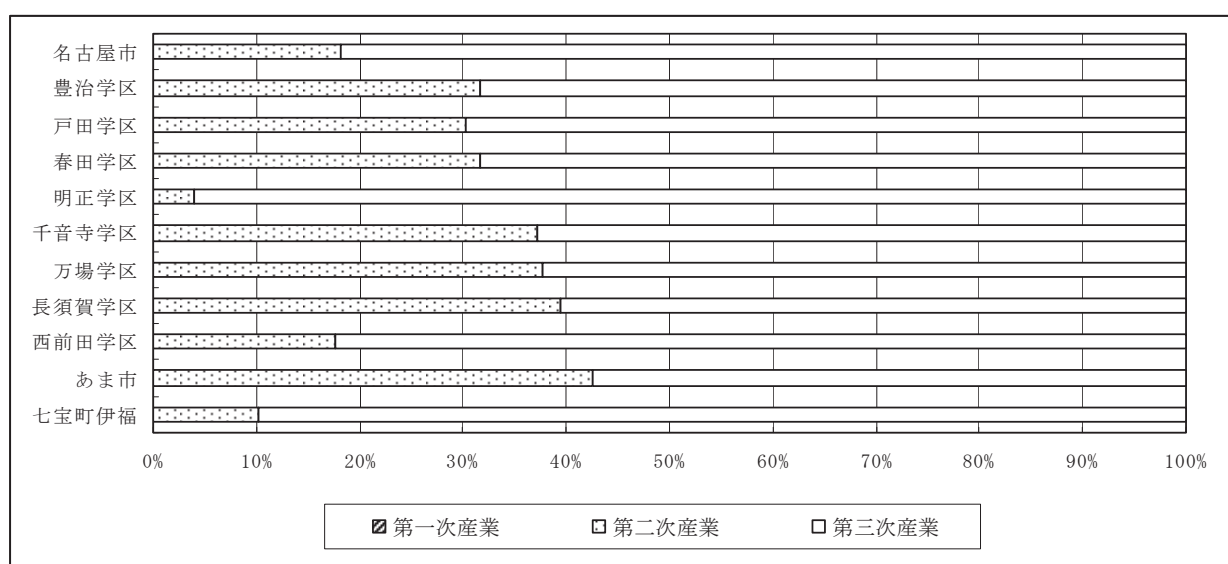


図 1-4-4(2) 産業別従業者数

注) 1:あま市は、海部郡七宝町、美和町及び甚目寺町の合計とした

2:七宝町伊福は、海部郡七宝町大字伊福のデータを記載した

4-1-2 土地利用

(1) 土地利用の状況

名古屋市及びあま市の土地利用の状況は、表 1-4-4 に示すとおりである。

名古屋市における土地利用区分は、宅地の割合が 51.8%と最も高いが、あま市では農用地及び宅地がそれぞれ 33.5%、36.4%と同程度の割合となっている。

資料)「土地に関する統計年報（平成 25 年版）」（平成 26 年 愛知県）

表 1-4-4 土地利用の状況

単位：ha

市名	行政面積	農用地	森林	原野	水面・河川・水路	道路	宅地	その他
名古屋市	32,643	1,150 (3.5)	1,111 (3.4)	—	1,509 (4.6)	6,206 (19.0)	16,920 (51.8)	5,747 (17.6)
あま市	2,759	925 (33.5)	—	—	229 (8.3)	422 (15.3)	1,005 (36.4)	178 (6.5)

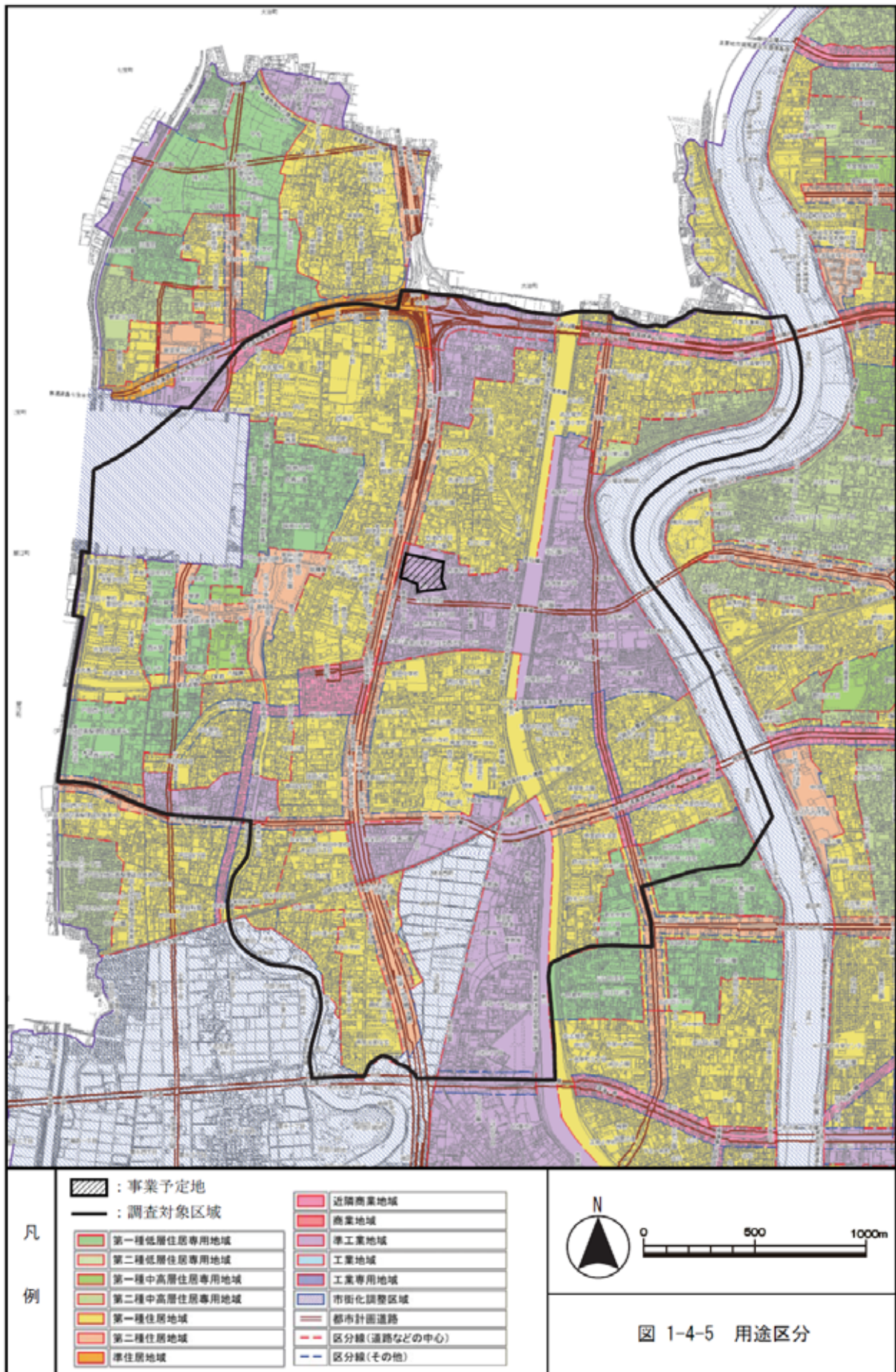
注) () 内は、行政面積に対する割合 (%)

(2) 都市計画法に基づく用途区分の状況等

調査対象区域は、全域が名古屋都市計画区域に含まれている。用途区分の指定状況は図 1-4-5 に示すとおりであり、事業予定地は準工業地域に含まれ、調査対象区域内には第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、準工業地域及び市街化調整区域が指定されている。

資料)「名古屋市都市計画情報提供サービス」(名古屋市ホームページ)

「あま市都市計画情報提供サービス」(あま市ホームページ)



この図は、名古屋市都市計画基本図を使用したものである。

(3) 周辺地域における開発の動向

事業予定地周辺における開発の動向として、事業予定地の西側において、名古屋環状2号線（西南部・南部Ⅱ）の建設事業が実施されている。当該事業における高架道路（名古屋第二環状自動車道）の区間は図1-4-6に示すとおりである。

資料）「名古屋環状2号線 西南部・南部Ⅱ」（国土交通省中部地方整備局愛知国道事務所）

4-1-3 水域利用

揚水設備等設置事業場は、調査対象区域内に5事業場、揚水設備等は10設備である。

4-1-4 交通

(1) 交通網

鉄道については、図1-4-7に示すとおりである。事業予定地は、JR関西本線及び近鉄名古屋線の北側に位置する。

バス路線については、図1-4-8に示すとおりである。調査対象区域内では主に市バスが運行しており、事業予定地北側の県道津島七宝名古屋線では名鉄バスが、南側の国道1号では三重交通が運行している。

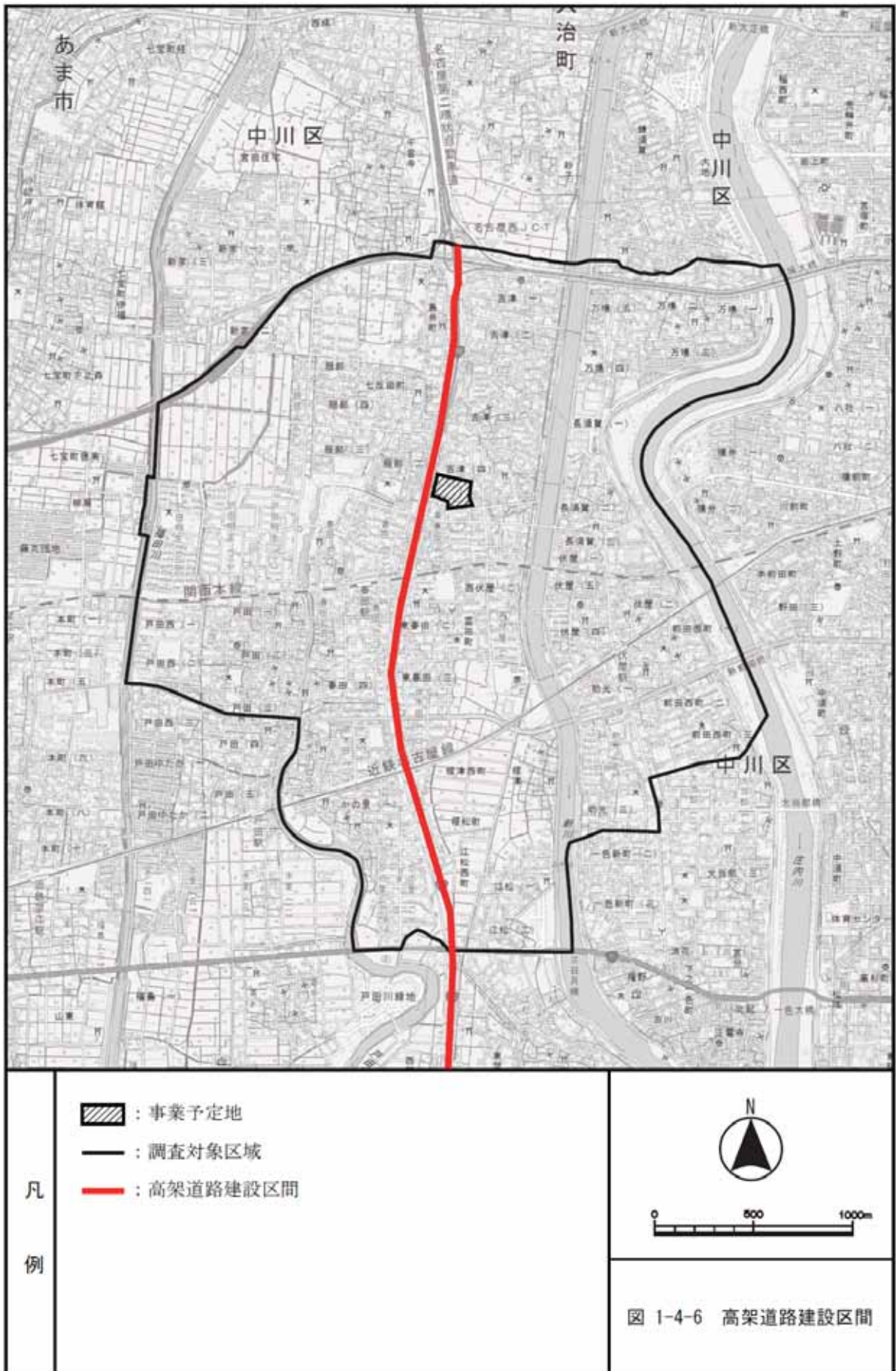
主要な道路網については、図1-4-9に示すとおりである。調査対象区域には、高速道路の近畿自動車道名古屋大阪線、都市高速道路の名古屋高速5号万場線、一般国道の1号と302号、主要県道の名古屋中環状線、名古屋蟹江弥富線及び弥富名古屋線、一般県道の津島七宝名古屋線が通っている。

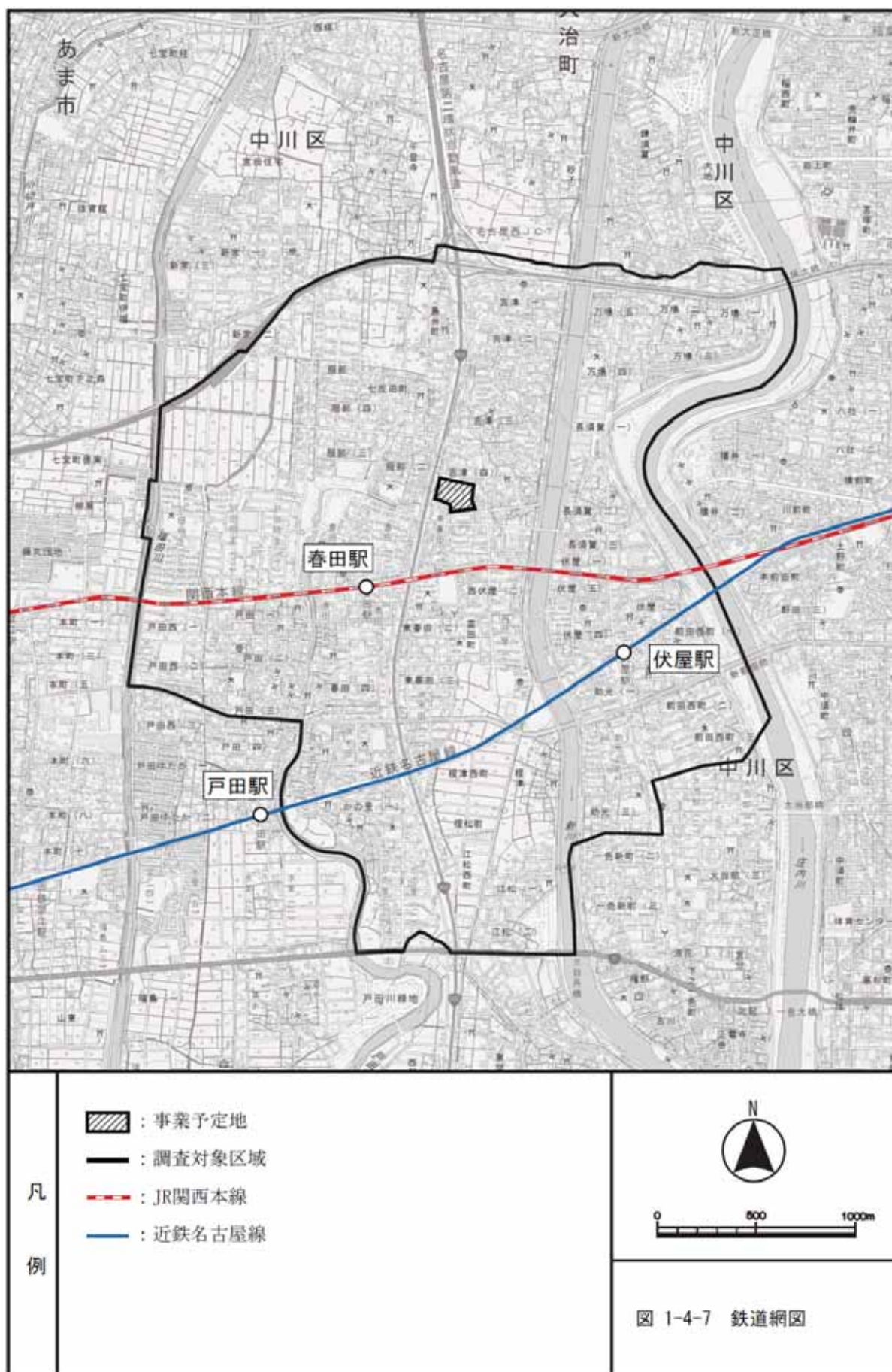
資料）「中京圏鉄道網図」（平成24年 愛知県）

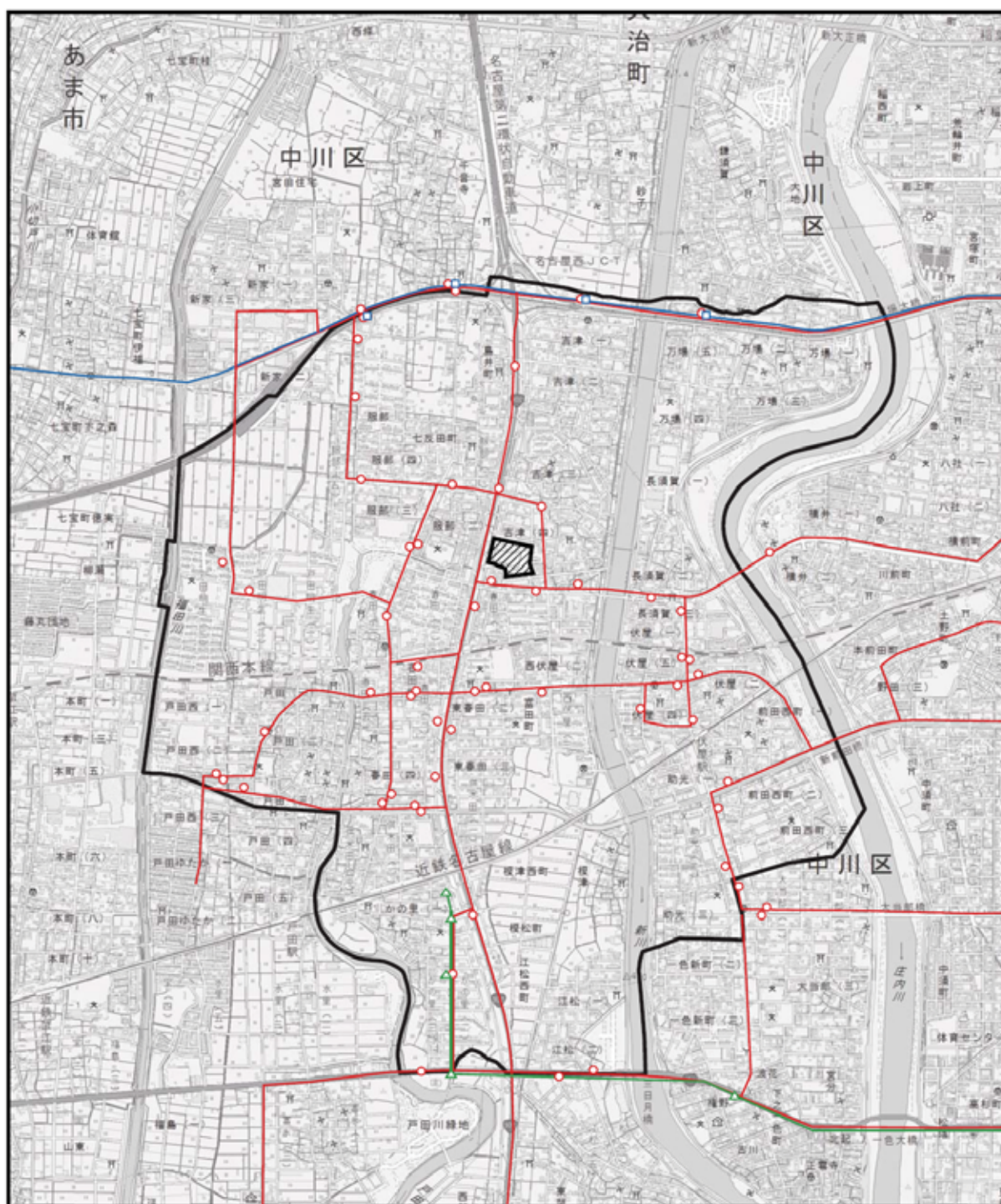
「市バス・地下鉄路線図」（名古屋市交通局ホームページ）

「名鉄バス路線図」（名鉄バス株式会社ホームページ）

「三重交通地区別路線図」（三重交通株式会社ホームページ）







凡
例

▨ : 事業予定地

— : 調査対象区域

— : 市バス

— : 名鉄バス

— : 三重交通

○ : バス停 (市バス)

□ : バス停 (名鉄バス)

△ : バス停 (三重交通)

注) バス停は、調査対象区域内及び調査対象区域に隣接するものを示した。



0 500 1000m

図 1-4-8 バス路線図

